

日本オフィス学会大会発表論文執筆要領

1. 論文全体の執筆量はA4で5枚以内とする。6枚以上となった場合は発表を取り止めていただく場合がある。
2. 1枚目は論文の表題及び abstract とし
 - ① 日本文表題 (14 ポイント)
 - ② 著者名 (12 ポイント)
 - ③ 日本文概要 5～7 行 (10.5 ポイント)
 - ④ 英文表題 (14 ポイント)
 - ⑤ 英文著者名 (12 ポイント)
 - ⑥ 英文 abstract 5～9 行 (10.5 ポイント)を記す(次頁「表題及び abstract モデル」参照)。
3. 本文は 36 文字 30 行で 3 枚前後 (図版・参考文献含み) とする。
4. 原則として、Microsoft WORD を用いて作成し、出来た文書ファイルを学会宛に送信する。
5. 大会予稿集へは、原則として、作成された文書ファイルが、そのまま転載される。
6. 送信先は office@jos-japan.jp

プロセス指向による交換ソフトウェア自動試験環境

△△ △△ (氏名)

○○研究所

本稿では、まず、交換ソフトウェア開発の現状と課題を整理し、交換ソフトウェアプロセスの規定と、それを支援するプロセス指向SDEの必要性を述べる。ついで、プロセス構造化、対象ドメイン指向などの、プロセス構築のための方法論に基づいたプロセス指向SDEの実現法として、Process Integration を提案し、プロセス自動化のための要求条件の整理と、それを実現するSDEの構成について述べる。最後にその適用例として、試験プロセスの自動化を支援する個々のツールを紹介し、それらを統合するプロセス指向SDEの具体的構築法を示す。

Process Oriented Automatic Testing Environment for Switching System

△△ △△ (Name)

○○ Laboratories

This paper proposes methodologies for creating process oriented SDE. First, problems of a switching system software development are clarified and needs of process oriented SDE are expressed. Then, the Process Integration is shown as an implement for process oriented SDE based on process structuring and domain oriented concept proposed as methods for creating a switching system software process. Requirements for automatic testing are given and the SDE structure which meets these requirements is shown. Finally, as an example of SDE, the tools which support automatic testing and process oriented SDE which integrate these tools are shown.